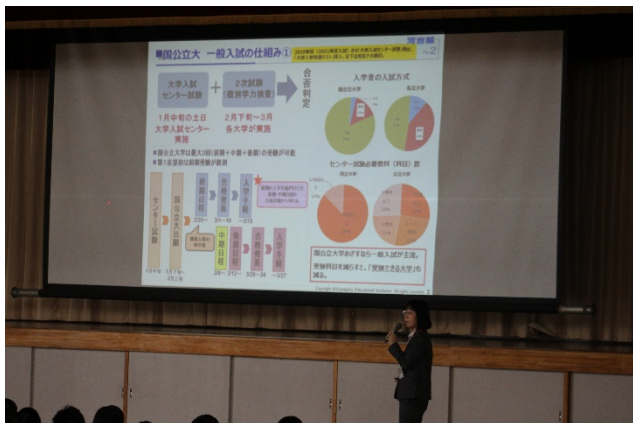


令和元年度 高2生対象 進学講演会



【日時】 令和元年5月11日(木)
15:20 ~ 16:10

【場所】 本校体育館

【講師】 河合塾 横川 ますみ 氏

【演題】 進路実現に向けて 今日から始めること

【概要】

「大学入試の現状」などに加えて、入試改革に関わる「受験生の心構え」について資料を用いながら熱心に話していただきました。

1 大学入試の現状

- (1) 国公立大学合格者と不合格者のセンター試験教科別平均点を比べると、文系では数学②と地歴公民②に差がみられ、理系では国語と理科②に差がみられる。
- (2) センター試験は得点率の平均が60%となるように作られており、国公立大学を目指す上で、地方拠点大学レベルは65%以上、地域拠点大学レベルは75%以上、旧帝大レベルは80%以上得点することが必要とされている。バランスよく学習し2次試験に耐えうる学力をつけることが必要である。
- (3) 全統模試受験者の「名大合格者」平均点から、今後受験する全統模試に対して目標値を設定し、有効利用してもらいたい。マーク模試では75%以上、記述模試では偏差値60~65が目安である。
- (4) 共通テストに関しては、「思考力・表現力・判断力」がキーワードとなる。素早い情報処理力など求められることは多いが、基礎学力の重要性は変わらない。学習の「内容」を重視し、予習・授業での確認・復習で実際に解くというサイクルを実施することが必要である。

2 受験生の心構え

- (1) 高校2年生の夏前によいスタートが切れるように。
- (2) 現在できることは「苦手科目の克服」である。また、高校2年生の間に将来の進路につながる学問は何か、興味のある分野が学べる学部学科はどこにあるのか進路研究を進めることが重要である。
- (3) 「負けない学力」を身に付けること。分かったつもりで取り組むのではなく、自分で類題を解き直したり、時間をおいてしつこく見直しをしたりすることが合否を分ける。
- (4) 成績が伸びる生徒の要素は3つある。「目標がある」「自己分析できる」「学習計画を立てることができる」である。基礎力と反復力を磨きながら、バランスよく学習し、最後まであきらめないでほしい。チャレンジし、自己分析を重ね、振り返りできることが現在の受験生に求められている。

